共通価値の創造　日本での取り組み

制作：ネスレ日本株式会社マーケティング＆コミュニケーション本部　2019年5月

CEOメッセージ

ネスレは、世界最大の食品飲料会社です。世界190カ国で事業展開し、30万8,000人の従業員が、「生活の質を高め、さらに健康な未来づくりに貢献します」というネスレの存在意義を示すために働いています。

ネスレのスイスでの創業は、栄養不足による乳幼児の死亡率の高さに心を痛めた創業者アンリ・ネスレが乳児用シリアルの開発に成功したことから始まります。以来150年以上にわたってネスレは社会問題の解決に取り組んでまいりました。

約10年前、ネスレは共通価値の創造という考えを提唱しました。共通価値の創造は、ネスレの存在意義を実現していくための事業戦略です。事業を通じて社会的な問題を解決することこそが、私たちの使命であり、同時に成長の機会でもあります。

私たちネスレ日本は、少子高齢化が進む成熟先進国の日本市場で、ネスレの製品やサービスを通じて日本社会が抱えるさまざまな問題解決に取り組んでいます。日本の「新しい現実」がもたらす問題を発見し、イノベーションを通じて解決することで、共通価値の創造を実践しているのです。

これからも皆さまから信頼される企業として価値ある解決策を提案し続けていけるよう、個人や家族のために、コミュニティのために、そして地球のために、生活の質を高め、さらに健康な未来づくりに貢献してまいります。

ネスレ日本株式会社　代表取締役社長兼CEO
高岡 浩三

ネスレは、生活の質を高め、さらに健康な未来づくりに貢献します

「生活の質を高め、さらに健康な未来づくりに貢献します」という存在意義に動機づけられたネスレの2030年に向けた長期的な目標は、国際連合の持続可能な開発のための2030アジェンダに合致しています。

ネスレは世界中の何十億人という人々の生活に関わっています。私たちはネスレ製品を楽しんでくださる個人や家族の皆さまから、私たちが暮らし働く、そして原材料を供給してくれるコミュニティ、さらに私たちすべてが依存する自然環境に至るまで、関わりを持っています。

個人と家族のために さらに健康で幸せな生活を実現します

「ネスカフェ　アンバサダー」は、コーヒーマシンを職場やコミュニティでご活用いただくサービスです。一杯のコーヒーを基点に会話や笑顔を広げる“コミュニケーションの活性化”に貢献します。

「ネスカフェ アンバサダー」

コミュニティのために 困難に負けない活力あるコミュニティを育成します

ネスレ日本は、社内（社員）を重要なコミュニティととらえています。なぜならば、社員一人ひとりの成長が会社の成長に繋がると考えているからです。社員育成の施策の一つとして、イノベーションアワードを実施しています。

イノベーションアワード

地球のために 未来の世代のために資源を守ります

ネスレは、2025年までに、ネスレ製品のパッケージを100%リユース（再使用）もしくはリサイクル（再生利用）可能にするというコミットメントを打ち立てました。

藤沢ビーチクリーンプロジェクト

さらに健康で幸せな生活を実現します

消費者の食習慣は変わりつつあります。こうしたニーズの変化に合わせて、ネスレは製品をさらに栄養のある、より自然なものに改善しています。また、親や保護者の皆さまをサポートするサービスも実施しています。原動力である*Nestlé for Healthier Kids*(「ネスレ ヘルシーキッズ」)はネスレの旗艦イニシアチブです。2030年までに5,000万人の子どもたちがさらに健康な生活を送れるよう支援します。

ネスレ日本は共通価値の創造を推進するにあたり、日本社会が抱えるさまざまな問題の解決を第一に考え、少人数世帯の増加、地域コミュニティの減少、そして職場でのコミュニケーションの希薄化といった問題に取り組んでいます。

「ネスカフェ アンバサダー」

家庭用コーヒーマシン「ネスカフェ　ゴールドブレンド　バリスタ」を、家庭だけでなくオフィスでも活用していただくために、2012年11月に「ネスカフェ　アンバサダー」の募集を開始しました。経済性や利便性に加え、一杯のコーヒーを起点に会話や笑顔を広げる“オフィス内コミュニケーションの活性化”といったベネフィットが受け入れられ、応募者は45万人(2019年3月現在)を突破しています。

職場で会話や笑顔を広げる「ネスカフェ アンバサダー」

数字でわかる

1 「ネスカフェ アンバサダー」の応募者は**45万人**を突破しました。(2019年3月現在)

2 「介護予防カフェ」は神戸市内でこれまでに**76ケ所**立ち上がりました。(2019年3月現在)

3 **2018年**、従来の「ネスレ ヘルシーキッズ」の対象を地域コミュニティ(子ども、保護者、高齢者)に拡大しました。

「ネスカフェ ゴールドブレンド バリスタ」

簡単なボタン操作だけで多彩なカフェメニューが楽しめます。

「こうべ 元気! いきいき!! プロジェクト」

2013年、兵庫県神戸市とネスレ日本は、「こうべ 元気! いきいき!! プロジェクト」の連携協定を締結しました。栄養や健康に関するノウハウを活かし、高齢者の生活の質の向上に貢献しています。取り組みの一つである「介護予防カフェ」に「ネスカフェ ゴールドブレンド バリスタ」などを提供し、「ネスカフェ」を楽しみながら語らう集いの場づくりを応援しています。すでに神戸市内の76カ所（2019年3月現在）で立ち上がり、地域コミュニティの活性化に貢献しています。

「ネスカフェ」を楽しみながら語らう集いの場「介護予防カフェ」

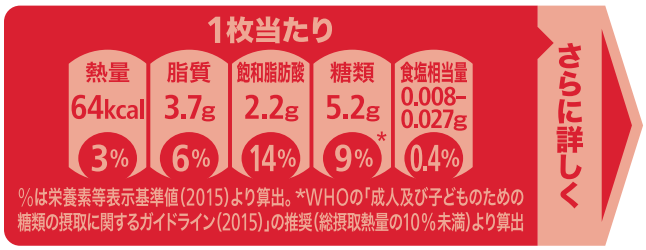
「ネスレ ヘルシーキッズ」

幼い頃に、栄養・健康・ウェルネスに関する知識と実践する力を身につけることは、生涯を通じた財産となります。ネスレがグローバルで推進する旗艦イニシアチブ「ネスレ ヘルシーキッズ」は、胎児期から青年期の重要な時期に、親や保護者を啓発し、支援することを目指しています。日本でのプログラム開始から累計すると、のべ約10,000校の小学校から申し込みがあり、約175万人の児童に教材を提供しました。ネスレ日本では2018年から従来の「ネスレ ヘルシーキッズ」を子どもだけでなく、保護者や高齢者にも拡大し、地域コミュニティの活性化を推進する地方自治体や団体と取り組んでいます。

世界司厨士協会連盟が毎年実施する「インターナショナルシェフズデー」にネスレは世界各国で協力しています。2018年、日本では、東京都内の小学校で特別授業を実施しました。

製品パッケージ上の栄養情報表示

ネスレは、おいしく健康的な製品やサービスをお届けすることで、消費者の皆さまやご家族の皆さまが、さらに健康で幸せな生活を実現できるよう支援しています。消費者の皆さまが正しい情報を得た上で製品を選択（インフォームドチョイス）できるよう、原材料、栄養面の利点、健康情報、ポーションサイズ（1食当たりの量）などを、ネスレ製品のパッケージで表示しています。



栄養ガイド表示（カロリーガイド表示）：生活習慣病のリスク上昇に関連する、脂質、飽和脂肪酸、糖類や食塩といった栄養素の1食分当たりの量とそれが摂取目安に対して占める割合（%）をアイコン化し、わかりやすく表示しています。
（例：「キットカット ミニ 14枚入り」の「栄養ガイド表示」）

ネスレ ヘルスサイエンス

高齢化や慢性疾患の増加を背景とした医療費の高騰が、大きな社会問題となっています。投薬や手術に頼りすぎた医療システムは持続可能とは言えず、大きな発想の転換が求められています。一方で、近年の栄養と健康に関する科学の発展はめざましく、この分野では世界中の研究者が日々新たな発見をしています。
日本では、30年以上の歴史がある栄養補助食品を全国1万軒以上の医療機関・介護施設や、在宅医療の現場でご利用いただいています。また、全国の大学や医療施設との共同研究や各種学会での研究成果発表を通じて、日本の栄養療法の発展にも貢献しています。

「ネコのバス」

ネスレ ピュリナ ペットケアは、保護された猫（保護猫）のためにバス車両を全面的に改装した「ネコのバス」を活用して、保護猫の譲渡会を実施しています。

困難に負けない活力あるコミュニティを育成します

ネスレは、従業員の地位向上、農村開発の支援、責任ある調達の確保、そして人権を推進し、安定した長期的なバリューチェーンの一端として困難に負けない活力あるコミュニティを育成することを目指します。「ネスプレッソ AAAサステイナブル・クオリティ(持続可能性品質)™ プログラム」「ネスカフェ プラン」「ネスレ カカオプラン」「ファーマーコネクト」などのイニシアチブは、世界中の何千ものサプライヤーや農業従事者の耐性力を高める上で役立っています。

ネスレ日本は共通価値の創造を推進するにあたり、社員一人ひとりが顧客の問題解決に取り組んでいます。毎年開催される社内コンテスト「イノベーションアワード」です。また、一人ひとりがいきいきと力を発揮し、成果を出せる組織の実現を目指して「働き方改革」にも数年前から注力しています。

数字でわかる

1 2018年、ネスレ日本の全社員が参加するイノベーションアワードに**5,085件**の応募がありました。

2 2018年、社員の年間有給休暇取得平均日数は**約15日**でした。また、月平均残業時間*は**90%削減**しました。(2010年と比較)

3 2018年、ネスレ日本は、「ネスレ カカオプラン」のカカオを**約3,000トン**使用しました。

*工場を除く

イノベーションアワード

ネスレ日本は、少子高齢化が進む成熟先進国の日本で、製品やサービスを通じて日本社会が抱えるさまざまな問題の解決に取り組んでいます。日本社会はさらに複雑化し、それぞれが抱える問題も多様化しています。日々刻々と変化していく問題を解決するためには、社員一人ひとりがイノベーションを通じて顧客に価値を提供しなければなりません。社員全員が顧客の問題を発見し考える力を養うことができるよう、ネスレ日本では「イノベーションアワード」とよばれる社内コンテストを毎年実施しています。社員全員が、自分の顧客は誰か、顧客が抱える問題は何かについて考え、問題を解決するためのアイデア、そしてそれを実行した結果を応募します。

2018年イノベーションアワード大賞は、人手不足や環境についての問題解決と地域コミュニティの創出を目指す新しい宅配サービス「MACHI ECO便」(J-10参照)でした。

多様な働き方が可能な職場

さまざまな違いを持つ社員が集まった組織の方が新しい発想やイノベーションが生まれやすくなると考え、ネスレ日本は社員のダイバーシティの推進に取り組み、男女比バランスの向上に注力しています。また、ネスレ日本は働き方改革を推進し、一人ひとりがいきいきと力を発揮し、成果を出せる組織の実現を目指しています。働く時間と場所を最大限自由化したフレキシブルな働き方が可能なため、社員はワークライフバランスを保ちながら、より成果を出せる働き方を自ら選択することができます。

国際女性の日 : ネスレは毎年、国際女性の日(3月8日)に世界各国でイベントを開催しています。2019年は初の試みとして、同じく兵庫県神戸市に本社をおく、製薬企業の日本イーライリリー株式会社と合同でイベントを開催しました。

沖縄で初となる大規模な国産コーヒー豆の栽培を目指す産学官連携「沖縄コーヒープロジェクト」

ネスレ日本と沖縄SV株式会社は、沖縄県名護市、琉球大学と連携し、沖縄で初となる大規模な国産コーヒーの栽培を目指す「沖縄コーヒープロジェクト」を開始しました。

近年、沖縄県では農業就業者の高齢化や後継者不足、耕作放棄地への対応など、一次産業における問題が発生しています。沖縄県内の耕作放棄地などを活用し、沖縄を拠点とする国産コーヒー豆の栽培を本格的に開始することで、沖縄県の一次産業における問題解決を目指しています。また、沖縄県産のコーヒー豆の生産量を拡大することで、沖縄県産のコーヒー豆やコーヒー製品を新たな特産品とするとともに、環境に配慮した沖縄の新たな観光資源としてサッカー場を併設したコーヒー農園を将来的に開発するなど、コーヒー豆の栽培を通じて新たな産業を育成することも目指しています。

「ネスレ カカオプラン」

「ネスレ カカオプラン」は品質に見合った価格での買い取りだけではなく、病気に強く、良質なカカオがたくさん実る苗木の提供や、カカオ栽培に関する知識と技術を提供する勉強会の開催、さらには水環境や道路の整備、学校の建設などを通じて、カカオ農家が健やかに生活できるよう、カカオ生産国を支援しています。また、この活動を通じて、男女平等の促進、児童労働問題への対応などにも取り組んでいます。

Grown Respectfully

*Grown Respectfully*は、コーヒー栽培者の感動的な実体験を伝えることで「ネスカフェ プラン」の活動を伝える取り組みです。

未来の世代のために資源を守ります

ネスレは、事業活動に必要な資源を持続可能的に供給するため、森林、土壌、海洋、気候に依存しています。ネスレは、さらに効率的に業務を行い、気候変動に対応し、食品ロスと廃棄物を削減し、水を大切に使うことにより、資源を持続可能的に使用し、管理するためのコミットメントと目標を設定しました。長期的な目標は、ネスレの事業活動における環境負荷ゼロを目指すことです。

ネスレ日本も、グローバルで掲げるプラスチックごみゼロを目指すコミットメントに向けて取り組みを進めます。また、温室効果ガスの排出量をさらに削減するとともに、物流における人手不足という問題に対して、環境負荷の少ない鉄道輸送や海運輸送への転換「モーダルシフト」を推進します。

数字でわかる

1 2018年、包装材料の仕様変更により、前年から**約300トン**の包装材料を削減しました。*

2 自社工場の生産量は、2010年から2018年までに78%増加しましたが、総直接取水量を**18%**削減しました。

3 自社工場の生産量は、2010年から2018年までに78%増加しましたが、総エネルギー使用量は**34%**削減しました。

*自社調査による

プラスチックごみゼロを目指す取り組み

海洋プラスチックごみ問題（プラスチック廃棄物問題）に対する関心が世界中で高まっています。2018年、ネスレは2025年までに、ネスレ製品のパッケージを100%リユースもしくはリサイクル可能にするというコミットメントを打ち立てました。

全社をあげてリデュース、リユース、リサイクルに取り組み、すべての事業所での廃棄物ゼロを目指します。また、ネスレ製品のパッケージの埋立処分や海洋土壌廃棄を一切なくします。代替素材を開発し、廃棄物のない未来を形作り、そして行動変化を促進し、この複雑な問題に取り組みます。

藤沢ビーチクリーンプロジェクト：2019年4月、約80名のネスレ日本の社員、OB、家族が参加して、神奈川県藤沢市の海岸で漂流したプラスチックごみなどを清掃しました。

メタン発酵排水処理システム

島田工場（静岡県）は、世界30カ所のネスレのコーヒー工場の中で最初にメタン発酵排水処理システムを導入しました。この排水処理は嫌気性微生物（メタン菌）の効率的な使用により高濃度の排水の中の有機物の分解処理を行っています。2005年からは、このメタン発酵排水処理システムから発生するバイオガス（主にメタンガス）をボイラーの補助燃料として利用しています。

島田工場：メタン発酵排水処理システム

国内全3工場で焼却・埋立廃棄物ゼロ

2016年、国内の全3工場が焼却・埋立廃棄物ゼロを初めて達成、現在も継続しています。
島田工場と姫路工場（兵庫県）では、コーヒー抽出工程で排出されるコーヒーかすのほぼ100%を燃料として再利用し、その燃焼エネルギーで発生した蒸気を工場の熱源として利用しています。また、島田工場は、2010年から、製造過程で発生するコーヒーかすの一部を培養土にリサイクルする活動も続けています。
「キットカット」を製造する霞ヶ浦工場（茨城県）は食物残さの全量飼料化に取り組んでおり、包装工程後に、チョコレートと包装材料を分離する機械を導入、分別と資源活用を効率化しています。

姫路工場：コーヒーかす熱エネルギー回収システム

霞ケ浦工場：菓子製造ラインと周辺施設

MACHI ECO便

ネスレ日本は、2018年10月、佐川急便株式会社と新しい宅配サービス「MACHI ECO便」を開始しました。

「MACHI ECO便」は共通価値の創造の考え方に基づいて、急速に成長するEコマース市場を背景とした人手不足や環境についての問題解決を目指した、環境負荷の少ない新しい宅配サービスです。

地域の方々にご協力いただき、「ECO HUB（エコハブ）」というストックポイントの役割を担っていただくことで、同じ地域の人と人がつながり、世代の枠をこえた地域コミュニティの創出を目指しています。

「MACHI ECO便」は、人手不足や環境についての問題解決と、
地域コミュニティの創出を目指す新しい宅配サービスです。

大手小売企業様との2社共同カラーリングコンテナ

モーダルシフトの推進

ネスレ日本は、トラック輸送と比較して環境負荷が少ないモーダルシフト（大量輸送できる鉄道輸送と海運輸送への転換）を推進しています。地球温暖化の原因の1つとされる二酸化炭素の排出量において、鉄道輸送はトラック輸送の約11分の1、また、船舶輸送は約6分の1とされています。

社内物流では、一部製品を対象に2009年に鉄道輸送、2010年に国内3工場から北海道向けの配送で海上輸送を開始しました。社外（顧客向け）物流の分野でも、2010年から鉄道利用を開始し、2012年から本格的にモーダルシフトに取り組んでいます。

今後もパートナー企業や団体との協力を通じて、バリューチェーン全体の環境パフォーマンスの向上を目指します。

2019年 ネスレ日本 重要課題マトリックス

社外ステークホルダーの重要度評価 ＼ 社内ステークホルダーの重要度評価	やや重要	重要	非常に重要
非常に重要		人権の尊重	商品パッケージとプラスチックの削減
重要	食品の放射能汚染 自然災害対応 持続可能な農林水産業の実現 気候変動 水資源の保全 汚染の防止	トレーサビリティの確保 食物アレルギー・グルテンフリー・ハラル等への対応 健康寿命の延伸 残留農薬 健康情報の表示 消費者保護 企業活動の透明性確保と迅速な情報提供 ワークライフバランスの実現 ダイバーシティ 資源利用の効率化	高齢者の健康 データセキュリティ 製造・流通プロセスにおける安全衛生管理 社員の安全・健康の確保 ビジネス倫理 公正で働きがいのある職場環境の提供
やや重要	過剰栄養	食習慣の変化 公正なマーケティングと広告 高齢化・高齢者支援 新しい技術の責任ある利用 事業の継続性確保	

個人と家族のために	コミュニティのために	地球のために
データセキュリティ 高齢者の健康 トレーサビリティの確保 製造流通プロセスにおける安全衛生管理 健康寿命の延伸 食物アレルギー・グルテンフリー・ハラル等への対応 残留農薬 食品の放射能汚染 健康情報の表示 消費者保護 食習慣の変化 高齢化・高齢者支援 過剰栄養 公正なマーケティングと広告	人権の尊重 社員の安全・健康の確保 ビジネス倫理 公正で働きがいのある職場環境の提供 企業情報の透明性の確保と迅速な情報提供 ダイバーシティ ワークライフバランスの実現 持続可能な農林水産業の実現 自然災害対応 事業の継続性確保 新しい技術の責任ある利用	商品パッケージとプラスチックの削減 気候変動 水資源の保全 汚染の防止 資源利用の効率化